

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年2月14日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4670104100号
法人名	有限会社ウェルケア
事業所名	グループホームひまわりの里
所在地	鹿児島県鹿児島市吉野町5916-1 (電話) 099-295-8631
自己評価作成日	平成22年11月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kagoshima-kaigonet.com/">http://www.kagoshima-kaigonet.com/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成22年12月13日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>① ターミナルケアに関しては、在宅医療と連携がとれているため、ご家族・職員かかりつけ医が一体となった終末期ケアが出来ている。今後は、グループホームが終の棲家ではなく、ご家族のもとへ帰れる場所であるよう在宅支援にもとりくみ、最期をご自宅で迎えてほしい。</p> <p>② 作業療法士が勤務しているため、専門的な支援が受けられる。又、有資格者によるアロママッサージ等の施術も行なっている。</p> <p>③ ケアの基本であるパーソン・センタード・ケアの理念を学んだマッパーが2名勤務し、質の向上に努めている。</p>
---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>鹿児島市北部の自然環境に恵まれた住宅地に立地し、すぐ近くに小、中学校があり、少し足をのばすと吉野公園、寺山公園がある。</p> <p>理念のひとつに謳っている「自立」に力を入れて自宅に帰れるようになることを目標に日々利用者の支援にあたっている。個々の能力に応じたリハビリを実施し、車イスのままでの生活をしないケア、健康状態に問題がない限りポータブルトイレの使用はしないなど「自立」に向けた日常生活の支援に取り組んでいる。グループホームを、「利用者の生きる場所」として位置づけ、利用者ができることに職員は安易に手を出さず、見守ることで安全で自立した生活を送れるよう配慮している。また、利用者を一人の人間として尊敬し、常に会話する機会を持ち、利用者の立場にたって思いや意向を把握し、個別のケアに努めている。職員を主体とした勤務体制などで資格取得の支援に取り組んでいる。利用者から感謝の言葉が職員の励みになっており仕事のやりがいにもつながっている。今後は運営者、職員、地域がひとつになり、更に地域に密着したグループホーム運営が期待される。</p>
---

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	各職員にアンケートを取り、一人一人が利用者様が安心して生活していくには何が大切かを考え、これまでの理念を見直して作り上げている。	理念は職員全員で協議し作成している。常に職員会議などで話し合い理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	地域の方への夏祭りや敬老会等の施設イベントへの参加の働きかけや、日頃の散歩や挨拶等を通じて交流を持ち、野菜などを頂くこともある。	近隣の保育園児の訪問、中学生の職場体験、高校生の実習などの受け入れをしており地域の子ども達との交流がある。地域の方々にホームのクリスマス会、夏祭りなどの行事に参加を呼び掛け、また敬老会のおすしのおすそ分けや野菜などをもらったりと地域との付き合いも積極的に行っている	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域包括と吉野地区のグループホームが協働し、認知症の地域理解を深める為の活動を行なっている。又、来訪者のお話を傾聴し、地域の方々の身近な相談窓口となるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には消防署を交えた避難訓練なども取り入れ、ご家族や民生委員と意見交換をおこなっている。	民生委員、家族、地域住民、行政などの参加を得て2ヵ月に1回開催している。家族には毎回全家族に案内を出して参加を促している。家族向けの認知症講座や避難訓練を兼ねた会議を行って意見をもらうなどホームの運営に活かしている。	

鹿児島県 グループホームひまわりの里 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	生活保護や介護認定の手続き等で頻繁な行き来がある。又、地域包括や行政との話し合いの場に参加する等して、地域全体で連携に取り組んでいる。	日頃より連携を図り、協力関係を築くように努めている。また、介護相談員の受け入れも行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する資料を読み、理解に努めている。パーソン・センタード・ケアを全ての職員が基本として、命に関わらない限りは行動制限はせず、利用者様の心身に拘束のないケアに努めている。	身体拘束をしないケアの実践に取り組んでおり、勉強会も行っている。利用者全員が不意に外出する可能性を持っているということを常に念頭におき、職員間の連携を図り、日中は施錠せずに安全で自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃より利用者様の小さな異変も見逃さず、報告するよう徹底し原因追及を行なっている。又、ミーティングでは高齢者虐待防止について話し合い、資料などもすぐに関覧出来るようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度の研修会に参加し理解に努めている。利用者様の必要性に応じて制度を活用出来るよう支援し、又、職員全員が一番身近な権利擁護者としての自覚を持つよう努めている。		

鹿児島県 グループホームひまわりの里 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	その都度きちんと説明を行い、その場で不安や疑問点がないかを尋ね、納得して頂いた上で契約・解除をしてもらうようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様御本人から直接意見や不満をお話して下さることも多く、すぐに会議での検討・ケアの改善を行なっている。また、利用者様やご家族が素直な意見をお話出来る場を職員の方から作るように努めている。	面会時に近況報告と意見、要望を聞き出すようにしている。家族連絡シートを作成して職員は情報を共有している。利用者からは日常の会話の中で意見、要望を引き出すようにしている。出された意見要望については職員全員で話し合っ改善に向けて取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングの際や個別に職員の不安や疑問、意見等を話せる場を出来るだけ作っている。一人一人の意見を大切にし、チームとして一致団結してケアに望めるように努めている。	毎月のミーティングと各ユニットごとの話し合いを行って職員の意見や提案を聞く機会を設けている。利用者については事前に職員に情報を提供して意見を聞いている。また、職員の資格取得も支援している。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。			

鹿児島県 グループホームひまわりの里 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>全職員に学べる機会をつくり、更にやりがいや自信を持って働いてもらえるよう、資格取得に全面協力している。地域活動や研修にも積極的に参加させている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>研修会等で同業者の方と交流する場を持ち、意見交換等を行っている。又、定期的に地域の事業所が集まり、ネットワーク作りや勉強会を行い質の向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	体験入居等を通して、施設の雰囲気や職員のことを少しでも理解して頂けるようにしている。又、利用に至るまで御本人と直接お話する機会を必ず設け、不安や要望等を受け止める努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用に至るまでにご家族と直接お話する機会を設けて希望や要望等を受け止め、共に協力して利用者様の生活を支えていけるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時々状況に応じて対応して行けるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症ケアは決して一方的に施されるものではないことを肝に命じ、相互に思い合い、同じ目線・同じ立場にたったケアに努めている。利用者様から学び、教えて頂ける場面を作っている。		

鹿児島県 グループホームひまわりの里 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の現状を毎月のお便りでご家族へお知らせするよにしている。又、御家族との外出・外泊を支援し、一緒に御本人を支えていく関係を築いていけるよう努力している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人達との関係が途切れないよう、利用者様へ確認したうえで面会や電話等に対応している。	お墓参りや以前の職場の見学、ドライブがてら自宅の近くをまわるなど馴染みの人や場との関係継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を日々の生活の中で把握し、場合によっては職員が間に入りより良い関係を築いて頂けるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後も、気軽に施設に来て頂けるような関係を築くように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	以前の暮らしと変わらず、なるべく御本人の希望に沿った生活が出来るように支援している。困難な場合は、御本人と話し合いをし、検討するように努めている。	否定的な声かけをしないように心がけて常に肯定的な声かけで本人の思いや意向を引き出すように努めている。会話や表情、言動、家族や関係者からの情報などから意向を把握し本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に一人一人の情報はサマリー等を通し把握するよう努めている。又、ご家族からお話を伺ったり、個々の人生歴をまとめた情報書を作成し、コミュニケーションに生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人と日々コミュニケーションを図り、その中で御本人の生活のリズム、心身状態を把握するように努めている。又、職員同士の情報共有にも努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人がより良く生活できる為、御本人やご家族から意見を聴き、それを元に職員で検討を重ね介護計画を作成している。	ケアプランとは別に個々に合ったリハビリの計画も作成している。認知症の進行を現状維持できるようなプランを作成し、必要に応じて見直しを行い、家族の要望、職員の意見、提案など反映させた現状に即した介護計画を作成している。	



鹿児島県 グループホームひまわりの里 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個別記録を記載し（検討事項については詳細な記録を徹底している）、職員は利用様の状態・情報の共有をしている。個別記録等を元に、定期的なケアの見直しを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	在宅医療や歯科往診の利用、人工透析を受けながらのホームでの生活等、多機能性を活かして出来るだけ御本人やご家族の要望に応じた支援が出来るように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	教育機関と協力し、音楽療法士の実習や小中学校の職場体験の受け入れ、保育園児との交流、ボランティアさん等に来て頂く等し、外部の方々と協働し支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	なるべく御本人やご家族等の希望を大切に、安心して医療を受けられるよう支援を行っている。	本人、家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。家族が連れていく際はホームから病院あてに現況を書いた手紙を持たせている。	

鹿児島県 グループホームひまわりの里 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の看護師等に気軽に相談しながら、利用者様の健康管理について意見交換を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報書を提出するだけでなく、利用者様の入院時は出来るだけ職員も付き添い、直接看護師に利用者様の日頃の様子等をお話するように努めている。又、入院後もこまめに情報交換を行い、対応の仕方等を事前に把握しておくように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医に終末期について説明を受け、ご家族にも定期的にお話をして意向を確認している。又、全員で方針を共有し、最期までその方らしく過ごせるよう、医療機関・ご家族と協力してターミナルケアに努めている。	入居の時点でホームの方針を説明して本人、家族の要望に応じた終末期ケアに取り組んでいる。職員も方針は共有しており、医師、職員、家族の連携で支援している。家族との話し合いは随時行っており、内容は家族連絡シートに記録している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応については会議にて指導を行いマニュアルも作成しているが、定期的な訓練は行っていない。		

鹿児島県 グループホームひまわりの里 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応手順を事務所に掲示し、職員へは災害時対応マニュアルを配布している。又、避難訓練を行い消防署の指導を受けている。	消防署立ち会いのもと年2回通報訓練と消火訓練を兼ねて避難訓練を行っている。近隣への協力の呼びかけも行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手の気持ちになって考え、言語・非言語のコミュニケーションを用いて個々人の誇りやプライバシーに配慮している。個人情報については事務所で管理し適切に扱っている。	声かけなどに配慮しながら対応している。接遇やプライバシーについても研修し、職員の資質の向上に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どんな事でも、必ず御本人と相談し、話し合った上で決めるようにしている。普段から御本人がどのような思いや希望を持っているかを知り、その意向に沿えるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活リズムや希望に合わせて過ごして頂けるように常に心がけ、決して職員側のペースで行なわないように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	定期的に移動美容室に来てもらい、カット・カラー・パーマ等希望に応じてして頂いている。馴染みの店がある利用者様はご家族と一緒にいられている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様のその日の状態に合わせて、下膳や調理の下ごしらえ、食器洗い等をして頂いている。	お茶碗洗い、片づけ、調理下ごしらえなど個々の力量に応じて職員と共に行っている。調理方法などのアドバイスをもらったり、誕生会やクリスマス会のケーキ作りを一緒に行うなど共に楽しみながら支援している。	

鹿児島県 グループホームひまわりの里 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月体重管理を行い、栄養士に献立作成を依頼して栄養バランスのとれた食事を提供している。又、個々の排泄量を考え、必要量の水分を摂っていただくようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔洗浄を基本として、一人一人に合わせて支援を行い、口腔内の清潔・誤嚥性肺炎の予防に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄リズムを把握し、排泄の失敗等を減らせるように努めている。出来るだけオムツ等は使用せず、御本人と相談しながら、一人一人の心身の状態にあった支援を行っている。	ホーム独自に工夫した排せつ表を作成し、個々の排せつパターンを把握し自立に向けた支援を行っている。健康状態に問題がない限りポータブルトイレは昼夜間共に使用せずにトイレでの排せつを支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝牛乳を飲んで頂いたり、日頃から補水に気を付けている。又、毎朝体操を取り入れ、日中も少しでも身体を動かして頂けるよう、生活リハビリや作業療法に努めている。腹部マッサージ等も行なっている。		

鹿児島県 グループホームひまわりの里 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日や時間等はある程度決められているが、その方の希望に合わせて入浴を楽しんで頂けるように努めている。入浴日以外の希望には、清拭や足浴等で対応している。	基本的な入浴日は決めているが希望に応じ対応している。足湯や温泉を楽しむこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく個々のリズムを大切に、習慣や体調に合わせて休息等をとって貰うようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤表ですぐに利用者様の情報を確認出来るようにしている。又、誤薬等を防ぐ為、服薬担当者だけでなく、職員全員が責任を持って服薬確認をするシステムを作り徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月一回はイベントを企画し、楽しんで頂けるよう支援している。又、生活暦に合わせて炊事や塗り絵、新聞の切り抜き等、好きな事をして頂ける時間を大切にしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	希望があれば外へ出られるよう支援している。又、花見やドライブ、ピクニック等を企画し、定期的に外出できる機会を設けている。ご家族が来訪された際は外出をお勧めし、外食や買い物等、ご家族との時間を過ごして頂けるように努めている。	気候がいいときは庭先にテーブルを出してお茶を楽しんだりしている。また散歩や希望があれば買い物も職員同行し外出支援を行っている。季節を感じられるよう近隣の公園への花見や遠足を行っている。	

鹿児島県 グループホームひまわりの里 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を所持する事に特に制限はなく、一人一人の希望に合わせて支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>希望があれば、自由に電話のやり取りをして頂いている。又、ご家族への年賀状やクリスマスカード等の支援も行っている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節の花々や絵、その月に合わせたレクリエーションを取り入れ、五感で季節を感じて頂けるように支援している。又、不快な音や臭い等にも配慮し、心地よく安心して生活できる環境作りに努めている。</p>	<p>リビングは広くて明るく季節の飾り物やレクリエーションの写真などが飾られている。テレビ・ソファが置かれ居心地良く過ごせるように工夫されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共有空間では自由にお好きな場所で過ごして頂けるようにしている。又、気の合う利用者様同士がどこでもゆっくり語り合えるように配慮している。</p>		

鹿児島県 グループホームひまわりの里 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	身の回りの物は出来るだけ長年愛用されてきた物を使って頂き、ご家族からのお手紙やお好きな絵・写真等を飾るのをお手伝いしている。	イスやタンス、家族の写真など馴染みのものや好みのもがあり本人が居心地良く過ごせるように工夫されている。寝具なども本人の使い慣れたものを持ってきてもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人に合わせた声掛けを行うように努め、安心して生活出来るように支援している。大きな文字や張り紙等、解り易い環境作りをしている。		



V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

鹿児島県 グループホームひまわりの里 1ユニット

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

鹿児島県 グループホームひまわりの里 1ユニット

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない